ウランバートル市の大学生の自由時間における活動の実態に関する研究
-活動に対する満足度と主観的幸福感との関係-

宇都宮大学　学生会員　○シレンデブ　オユンエルデネ
宇都宮大学　正会員　大森　宣暁　宇都宮大学　正会員　長田　哲平

1. はじめに

(1) 研究の背景･目的

現在，ウランバートル市は急速な都市化により，人口が急激に増加している．ウランバートル市の人口は 146 万人，モンゴルの人口全体の 46%を占める．ウランバートル市の人口の 64.3%は 35 歳以下の人であり，モンゴルの大学生全体の 93%がウランバートル市に住んでいるという状況である（2017 年）．

若者にとって「良質な教育」,「労働・社会福祉」,「社会参加・義務」,「健康・自由時間の過ごし方」の 4 つが問題として挙げられている [1)]．本研究では，この 4 つの問題の中の「自由時間の過ごし方」に着目する．モンゴルの若者の自由時間における活動に関する研究として，P.Tserenbazar[2)]は 23～33 歳のウランバートル市に居住している若者の自由時間の状況を明らかにした．

既存研究においては，若者の自由時間における活動に関するものはあるが，ウランバートル市の大学生の昼と夜の自由時間における活動に対する実態を明らかにしたものはない．そこで，本研究では，ウランバートル市の大学生の実態を明らかにするために，6 つの大学の学生にアンケート調査を実施し，自由時間における活動に対する満足度と生活の質の一指標として主観的幸福感に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする．これは，ウランバートル市の大学生の生活の質を上げるために改善策を考える上で重要な意味を持っていると考えられる．

(2) 自由時間の定義と仮説

自由時間の定義：大学での授業時間とアルバイトの時間と睡眠時間を除いた時間を自由時間とする．

仮説：若者の自由時間における活動の満足度が高いほど，生活全体で感じる幸福感が高くなる．

2. 大学生の自由時間における活動とその満足度，主観的幸福感に関する調査と分析

(1) 個人属性

2018 年 10 月 22 日～26 日に，ウランバートル市の 3 国立大学と 3 私立大学における大学在学中の文系と理系の学部 1 年次～5 年次学生を対象にアンケート調査を行った．

全サンプル 740 人中 64%が女性，36%が男性であり，17～22 歳が 93%であった．半分以上の 64%がウランバートル市外出身で，地方からウランバートル市に移転し，親や兄弟姉妹と一緒に住んでいる学生がほとんどである．通学時の主な交通手段としてバスを利用するする学生は 70%である．そして，子供がいる学生は 8%である．アルバイトに関しては，日本と違って（日本の場合 [3)]63%），26%がしていると回答した．一方で，一日当たりのアルバイトの時間は 8 時間より多いと回答した学生が半分以上いる．理由として，時給が低いことからお金を稼ぐために長時間にわたって働いてしまう学生と大学で学ぶより働いた方がいいと考える学生が多いということが考えられる．

(2) 自由時間における活動の実態

生活費以外に自由に使えるお金に対して，0₮より多く，50,000₮以下（日本で約 1.7 万円）を使っている学生が半分であり，自由に使えるお金が全体的に少ないということが分かる．男女別で大きい違いは見られなかったが，年齢で見たところ，20～24 歳の学生は他の学生よりお金を多く使っていることが分かった．アルバイトをしている学生は少ないため，生活費以外に使うお金を親，親戚，夫，妻からもらう学生が多い．自由時間を家の中と外どちらで過ごすのが好きかという質問に対して，家の中とどちらかといえば家の中と回答した学生は約 70%であり，

キーワード　大学生，自由時間における活動，主観的幸福感，ウランバートル市

連絡先　〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学工学部　TEL：028-689-6224　E-mail：plan@cc.utsunomiya-u.ac.jp

ウランバートル市出身の学生より地方出身の学生の方が家の中で過ごすのが好きと回答している．そして，平日の一日の自由時間の平均は 3.7 時間，休日は 7.5 時間であることが分かった．

男女別の昼と夜の自由時間における活動に対して，上位 5 まで挙げたものを表-1 に示す．全体的に，読書・勉強やテレビや家族・子供・友達・恋人と過ごす活動が多い．男性はゲームやスポーツが多く，女性は携帯やカフェ・飲食店・コーヒーショップに行くことが多いということが分かった．また，夜の場合，男性は居酒屋・バーへ行くこと，お酒を飲むこと，女性はモンゴル国立遊園地・公園・光の通り（歩行者天国）へ行くことが増えている．

また，大学別で傾向が見られたものに関しては，昼の場合，ウランバートル市の中心部にある大学の学生はカフェ・飲食店・コーヒーショップ等に行くことが多く，周辺部にある大学の学生は携帯やテレビ等といったアクティブではない活動をしている．この結果から，ウランバートル市の中心部は飲食店が多いが，周辺部に飲食店等の施設や自由時間を過ごす場所が少ないということが考えられる．夜は，全体的に家にいる学生が多いことから夜に行う活動や機会が少なく，交通手段が不便であることと治安が悪いことが原因であると考えられる．

3. 主観的幸福感に影響を与える要因

主観的幸福感（0～10 点）を被説明変数，昼と夜の活動に対する満足度（0～4 点）と個人属性と自由時間における活動を説明変数として，分析ソフト NLOGIT5 を用いて分析した．被説明変数が 0～10 と限定された範囲の値であるため，上限と下限を持つ Tobit Model[4)]を採用した．分析結果を表-2 に示す．

分析結果として，まず，自由時間における活動の満足度が高い学生ほど幸福度が高いことが分かった．次に，中心部にある，文系の，4，5 年生の，彼氏や彼女と住んでいる，自転車やタクシーで通学している，昼の自由時間に映画館で映画を見る学生ほど幸福度が高いことが分かった．一方，自由時間に一緒に活動を行う人が少ない学生と快適な施設が少ないと考える学生ほど幸福度が低いことが読み取れる．つまり，個人属性と自由時間の活動とその満足度が主観的幸福感に影響を与えることが確認された．

表-1　自由時間における活動（上位 5）

	男性	女性
昼	1.読書・勉強 2.友達や恋人と過ごす 3.PCゲームセンター・ゲームセンター 4.家族や子供と過ごす 5.スポーツ	1.読書・勉強 2.家族や子供と過ごす 3.携帯 4.カフェ・飲食店・コーヒーショップ 5.テレビ
夜	1.テレビ 2.家族や子供と過ごす 3.読書・勉強 4.友達や恋人と過ごす 5.携帯	1.家族や子供と過ごす 2.テレビ 3.携帯 4.読書・勉強 5.カフェ・飲食店・コーヒーショップ

表-2　モデルのパラメータ推定結果

説明変数	係数	t値	
大学3（中心部にある大学）	0.382	3.96	***
4～5年生	0.792	4.04	***
彼氏や彼女と住んでいる	0.971	2.14	**
自転車で通学している	2.139	2.02	**
タクシーで通学している	1.988	2.11	**
自由時間に映画館で映画を見る	0.492	1.71	*
一緒にその活動を行う人が少ない	-0.916	-3.02	***
夜は快適な施設が少ない	-0.713	-2.76	***
昼の活動に対する満足度	0.815	8.08	***
定数項	4.253	12.3	***
σ	2.184	30.68	***
L(C)	-1303.68		
L(β)	-1196.09		
$-2(L(C)-L(\beta))$	215.2		
観測数	586		

※ ***：p<0.01，**：p<0.05，*：p<0.1

4. おわりに

本研究では，自由時間における活動の実態と，その満足度と主観的幸福感に影響を与える要因を明らかにした．また，自由時間における満足度が高い学生ほど，生活全体で感じる幸福感が高いということを明らかにした．今後の課題として，より良いモデルを作るために，詳細な分析を行うことが必要である．また，日本とモンゴルの大学生の自由時間における活動との比較等も興味深いものと考える．

参考文献

1) Open Society Forum：「若者対策調査」
2) P.Tserenbazar：「ウランバートル市の若者のライフスタイルに関する研究-1980～1990 年生まれ，大学卒のウランバートル市に住んでいる若者を事例に-」2013
3) 菅野健，大森宣暁，長田哲平：「大学生の余暇活動と主観的幸福感」，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol74，No.5，pp809-816，2018
4) Greene, W. H. (2003). Econometric Analysis. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall